

連携体制構築に向けたプロセス（保健センターの動き）

俯瞰的立場の職員が存在

・連携体制構築や横断的連携事業の実施等にあたり、全庁を俯瞰的に見渡せ、調整などが図れる統括保健師や部長級の職員が存在。



A 俯瞰的立場の職員



① 位置について
ヨーイ

位置についてヨーイ

- ・常につま先立ちで、「位置についてヨーイ」の状態を保っておく。
- ・地域の変化を日々の保健活動や地区診断等の中で把握しておく。
- ・そのためにも、住民や関係組織等の関係性を強固にしておく。



② 根拠を集める

根拠を集める

- ・取り組みや連携体制構築の根拠となる地域の実態、関連法規、先行事例、モデル事業などを把握する。
- ・実態調査等のほか、都道府県や国等の関連するエビデンスを把握する。
- ・EBPHと連携維持に不可欠。



③ ツールをつくる

ツールをつくる

- ・連携先の意識の共有や、連携先の負担軽減のため、共有の計画シートや連携事業等のツールを作成。
- ・作成プロセスも重要。



④ 育てる、促す

育てる、促す

- ・人事異動や関係者のつてなども活かし、ギブ&テイクで信頼を強め、パブリシティ等も活用し、連携体制を拡充し、さらにカバー率を上げる。



① 位置について
ヨーイ



① 風をつかむ

風をつかむ

- ・何らかの事案の発生、首長の鶴の一声、モデル事業などの「風」をつかみ、日頃から把握していた課題の解決の好機として活用する。
- ・そのため、いつ「風」が吹いても良いよう、普段から取り組みのイメージ、連携体制の想定をしておく。



③ 仲間をつくる

仲間をつくる

- ・連携体制構築に当たり、まず保健センターの同僚などに取り組みの必要性、妥当性などを打診する。
- ・信頼関係を有する他課や関係団体等の関係者から、課題や動向などを探り、目的の共有、合意を図りつつ、目指すベクトルを揃える。



④ 協議組織をつくる

協議組織をつくる

- ・庁内外の合意を形成し、一見異なるベクトルを揃え、課題共有・役割分担等を図る協議組織をつくる
- ・継続性の担保のため、実施要項等を策定し、予算化し、行政計画、条例等に連携事業等を位置づけ、「制度化」を図ることが望ましい。



⑤ ツールをつくる



⑥ 育てる、促す



⑦ 評価・フィードバック



⑦ 評価・フィードバック

評価・フィードバックする

- ・連携体制の継続のため、プロセス指標やアウトカム指標等の数値的な変化や関係者の意識の変化等を評価し、その結果を関係者に提示する。
- ・そうしたプロセスは、連携体制の継続にも寄与するため、欠かせない。
- ・そして、それらを踏まえ、必要に応じて、活動内容や方向、展開方法等の見直し、拡大などを行う。



B 人材育成の意識

人材育成の意識

- ・実際の連携活動を通し、若手職員にプロセスを体験させ、コミュニティダイナミズム、コミュニティデベロップメントを体感させて、育てる。
- ・また、関係組織や住民などとの連携を通し、保健活動の仲間づくり、今後の各種の取り組みのパートナーづくりの意識を持つ。